

# 会告

- 平成 29 年度各賞受賞候補者の推薦について
- Mate2018 第 24 回「エレクトロニクスにおけるマイクロ接合・実装技術」シンポジウム  
—革新的なものづくりへの挑戦— 参加者募集
- 「溶接高温割れ発生予測評価指標の導出に向けた問題抽出とその評価方法の統一化」  
ミニ研究会 会員募集
- 「実構造物への展開を目指した溶接変形予測技術の活用」アドホック研究会 会員募集
- 溶接学会誌、全国大会講演概要集 J-STAGE 電子版の一般公開制限について
- 学生会員への学会誌送付の廃止→電子版閲覧への移行について
- 会員専用ページ「マイページ」の開設について
- 溶接学会主催行事予定について
- Best Author 賞 (JWS Best Author Award) の推薦について
- WEB 掲載の溶接学会論文集 35 巻 (平成 29 年度) の印刷物の購入について
- 平成 30 年度春季全国大会講演概要の頒布について
- Express 論文投稿の受付開始について
- Welding Letters の創刊について

## 平成29年度各賞受賞候補者の推薦について

下記により平成 29 年度 佐々木賞、田中亀久人賞、溶接学会業績賞、溶接学会技術貢献賞、妹島賞の各受賞候補者を募集いたしますので、適格者がございましたら、所定の推薦書（本会 HP より入手下さい）によりご推薦下さいませようお願いいたします。

項目	佐々木賞	田中亀久人賞	溶接学会業績賞	溶接学会技術貢献賞	妹島賞
授賞対象	多年にわたり溶接技術の開発または応用・普及に関し、その業績顕著なもの及び溶接技術について後進の教育指導、育成の業績顕著なもの。	ガス炎を利用した溶接・切断、工作等及び溶接技術全般に関し研究開発並びに実用化についてその業績顕著なもの。	溶接の学術に関する各部門において優秀な業績を挙げたもの。	溶接技術の開発または応用普及に中核的な役割を果たし、その業績顕著なもの及び溶接技術について若手技術者への教育・指導・育成の業績顕著なもの。	溶接プロセス（ハード及びソフト）に関する技術開発並びにその応用に尽力し、生産（製造）分野で多大な貢献のあったもの（個人又は団体）。
候補者資格	本会会員	本会会員に限らない			
推薦者資格	本会会員				
推薦手続	次の事項を記載した文書（所定の書式）6部を学会長宛（溶接学会事務局）に提出する。 イ. 候補者の氏名、職業・勤務先・役職名 ロ. 候補者の略歴 ハ. 賞を受けんとする業績の詳細（裏付となる資料を添付） ニ. 推薦者の氏名、連絡先 溶接学会業績賞については、賞を受けんとする該当分野とそこでの学術に関する業績の詳細及び該当分野に関する論文リストを添付する。溶接学会技術貢献賞については、賞を受けんとする業績の詳細を添付する。				
推薦書提出期限	平成 29 年 12 月 31 日			平成 30 年 1 月 31 日	
授賞年月日	平成 30 年 4 月 25 日（第 86 回通常総会）				
その他	多年にわたる業績をお考え下さい。年齢に制限はありませんが、溶接に通算 15 年以上関与したことを原則とします。また、その業績には公的な活動が含まれていることが望ましい。業績については詳細に述べ、十分な裏付資料を添付するようして下さい。	佐々木賞が多年にわたる業績（功労）を対象とするのに対し、本賞はある時期に示された優れた業績を対象とします。特許資料、公刊誌への発表・紹介など、業績を裏付けるための十分な資料を添付して下さい。	第1部門：溶接・接合、熱加工プロセス及び機器 第2部門：制御、システムの工学・技術及び組立実装技術 第3部門：材料及び溶接・接合性 第4部門：材料・製品の強度・破壊と設計 第5部門：施工・管理及び品質保証・品質管理 第6部門：新領域・境界技術	佐々木賞と同様、開発並びに技術普及・教育等の活動を含めて複数の業績があり、年齢は 45 才以下であることを原則とします。業績については詳細に述べ、十分な裏付資料を添付するようして下さい。 ※受賞時には、本会会員であることが必要です。	故 妹島五彦君による寄贈基金で運用されており、妹島君が活躍された溶接プロセス分野の業績をお考え下さい。

# Mate2018 第24回「エレクトロニクスにおけるマイクロ接合・実装技術」シンポジウム

—革新的なもののづくりへの挑戦— **参加者募集**

**日 時**：平成30年 1月30日(火) 8:50～17:15  
1月31日(水) 8:40～17:20

**会 場**：パシフィコ横浜 会議センター  
横浜市西区みなとみらい1丁目1-1

**主 催**：(一社)スマートプロセス学会 エレクトロニクス生産科学部会  
(一社)溶接学会 マイクロ接合研究委員会

**共 催**：(一社)エレクトロニクス実装学会  
(公社)化学工学会 エレクトロニクス部会  
(一社)レーザ加工学会

**協 賛**：応用物理学会、軽金属学会、精密工学会、電子情報通信学会、日本機械学会、日本金属学会、日本材料学会、日本溶接協会

## 〈開催趣旨〉

日本のエレクトロニクス産業は、この20年間、高機能化、高信頼化、小型化、低コスト化の技術開発に支えられた新たな電子デバイス・部品を組み込んだ電子システム創成の下、日本の高度成長を牽引してきました。今後も日本が世界を先導し続けるには、生産技術を科学的に探求することはもちろんのこと、既存の学問領域、設計・生産技術などの領域を越えて、エレクトロニクスを取巻く科学技術、経営・生産システム、価値システム、などの広い範囲を取り込んだグローバルなオプティマイゼーションとそれに基づくシステムインテグレーションが不可欠になってきています。本シンポジウムは、これら生産技術に関する最新の研究・開発に関する研究者相互の情報交換の場をより広くかつ定期的に持ち、生産の科学と技術の進展を促すことを目的として企画開催されます。

## 【シンポジウム参加登録費（論文集代を含む）】

- 主催団体個人会員 : 20,000円
- 大学・国公立研究機関 : 20,000円
- 口頭発表者・座長 : 20,000円
- 主催団体維持・賛助会員 : 25,000円
- 共催団体会員 : 25,000円
- 協賛団体会員 : 30,000円
- 一般 : 35,000円
- 学生 : 10,000円

## ●依頼講演＋一般論文発表＋ポスター発表

1月30日(火) 8:50～17:15	1月31日(水) 8:40～17:20
[A-1] パワーデバイス(1) (5件) [A-2] MEMS (依頼1件＋一般3件) [B-1] プリントプルエレクトロニクス (5件) [B-2] 回路基板 (依頼1件＋一般3件) [C-1] 樹脂実装 (5件) [C-2] 生産・製品システム (5件)	[A-3] ソルダリング(1) (4件) [A-4] ソルダリング(2) (4件) [A-5] パワーデバイス(2) (4件) [A-6] パワーデバイス(3) (4件) [A-7] パワーデバイス(4) (4件) [B-3] ナノマテリアル・マイクロ接合(1) (4件) [B-4] ナノマテリアル・マイクロ接合(2) (4件) [B-5] 回路基板の信頼性評価 (4件) [B-6] 接続信頼性評価 (4件) [B-7] 新材料・プロセス (4件) [C-3] 熱マネジメント(1) (4件) [C-4] 熱マネジメント(2) (4件) [C-5] 実装構造 (4件) [C-6] マイクロ加工 (4件)
プレナリーセッション 13:30～ ポスタープレゼン 15:40～ ポスターセッション 16:15～ 懇親会 17:30～	(依頼講演2件＋一般論文発表82件 合計84件)

## 【シンポジウム参加申込方法】

下記シンポジウム URL より、平成30年1月12日(金)までに参加登録を行って下さい。

<http://sps-mste.jp/mate2018/src/> (11月中受付開始)

○参加費のお支払いは銀行振込にてお願い致します。振込期日までにお振込みが間に合わない場合は、当日現金にてお支払い願います。

振込先銀行：三井住友銀行 千里中央支店

口座番号：普通0978673

口座名：Mate組織委員会 [メイトソシキイインカイ]

振込期日：平成30年2月28日(水)

○シンポジウム1日目に懇親会を開催します。シンポジウム参加申込時にお申し込みください。

懇親会参加費：5,000円

## 【問合せ、申込先】 Mate 2018 事務局

(ものづくりリエゾンオフィス (MLO) 内)

TEL：06-6878-5628 FAX：06-6879-7568

E-mail：mate@sps-mste.jp

シンポジウム URL：

<http://sps-mste.jp/mate2018/src/>

## 【予定プログラム (セッション名と発表件数)】

●プレナリーセッション (1月30日(火)13:30～15:30)

テーマ 「人工知能(AI)を活かした革新的なもののづくりへの挑戦」

1. 最新AIの動向と社会への影響：

山口 高平氏 慶應義塾大学

2. スマートなもののづくりを支えるAI技術：

澁谷 利行氏 株式会社 富士通研究所



## 「溶接高温割れ発生予測評価指標の導出に向けた問題抽出とその評価方法の統一化」 ミニ研究会 会員募集

### 1. 趣 旨

溶接時の高温割れ発生は、機械構造物の製造において大きな問題となることがしばしばあり、割れ発生時の温度やひずみなど普遍的な物理量を用いた設計段階からの予測・発生防止が極めて重要となっています。

溶接高温割れ感受性は、これまでに多くの試験によって評価されており、なかでもバレストレイン試験は、これまでに最も広く用いられてきました。しかし、本試験の方法や評価法は、AWS B4.0にて試験法が規定されているものの、ロンジ試験のみの規定であり、一方でJISでは規格化されていないために、詳細な実験方法や割れの測定方法は研究者に強く依存しています。そのため、従来の知見や他の研究者との結果を比較検討するには、測定方法の詳細まで遡って検討する必要があり、複数の研究報告を直接比較するには困難を極め、同一の研究者・グループによる材料種（化学組成）や溶接条件についての単なる比較評価に留まることが多いのが現状です。加えて、近年では異材溶接やレーザ溶接の適用等、材料や溶接方法の多様化が進められているため、統一的な試験・評価方法の確立や普遍的な指標を基にした溶接高温割れ感受性評価は極めて重要となっています。本研究会では、従来より高温割れ感受性評価に広く用いられてきたバレストレイン試験に焦点を当て、本試験の統一的な実施方法ならびに評価法を構築するとともに、割れ発生予測に有益に供することが可能な指標の抽出とその導出方法を検討することを目的とします。

### 2. 内 容

本研究会では、同一の試験片、条件によりバレストレイン試験を複数の試験機により実施し、各自のバレストレイン実験で得られた結果を基に、研究者間で生ずる実験・測定方法の違いや試験機が得られた結果・割れ発生現象に及ぼす影響を調査します。加えて、FEM等を用いて曲げひずみ負荷時のひずみ分布等の力学的な挙動を調査します。一方でAWS B4.0規格をはじめとしたこ

れまでに実施された試験法の調査を行います。得られた実験ならびに解析計算により得られた結果や文献調査結果をもとに、統一的な試験法、評価法の確立、得られた指標の妥当性の解明を目指します。また、これらを通して、割れ発生予測に有益に供することが可能な新たな指標の導出に向けた問題抽出や今後の課題提起を目指します。

3. 研究期間：2017年9月～2018年8月

### 4. 組 織

主 査：門井浩太（大阪大学 接合科学研究所）  
副主査：岡野成威（大阪大学 大学院工学研究科）  
委 員：阿部大輔（IHI）、佐々正登（日本冶金工業）、  
山下正太郎（大阪大学大学院）

### 5. 参加資格

溶接高温割れ現象やその感受性評価について関心があり、バレストレイン試験をはじめとした高温割れに関する研究の経験を有する方。溶接中や高速・高温での変形などの力学的現象の研究経験を有する方。また、情報交換に積極的に参加でき、当該分野における新規テーマ開拓に強い意欲のある方。ミニ研究会の規定に従い、原則として40歳未満の若手研究者、技術者（産官学）を対象とします。溶接学会会員、賛助員企業の参加はもとより、他学会に所属する研究者、技術者の参加も歓迎します。

### 6. 問合せ・連絡先

氏名、所属、部署、職名、連絡先（住所、電話番号、メールアドレス）、専門分野を記載し、下記までEメールにてご連絡ください。

門井浩太（大阪大学 接合科学研究所 准教授）、  
E-mail: kadoi@jwri.osaka-u.ac.jp

## 「実構造物への展開を目指した溶接変形予測技術の活用」アドホック研究会 会員募集

### 1. 趣 旨

モノづくりにおいては溶接を用いて構造物が組立てられることが多く、性能面、強度面から、溶接構造物の変形・応力予測が重要であることは御存知の通りです。また、これを実現するシミュレーション技術は、近年における計算環境の充実と共に、実用可能なレベルにあると言えます。しかし、溶接シミュレーション技術を社内に導入する際には、シミュレーション手法特有のノウハウが障害となり、十分には活用されていないのが現状です。この点において欧米・アジア諸国に遅れをとる可能性があります。

これを防ぐためには、産学が一体となった「シミュレーション利用技術の普及促進」が急務と考えます。そこで、本ワーキングでは、溶接力学シミュレーションにターゲットを絞り、近年開発が進められている新しいシミュレーション技術を実際に使用し、各種産業分野が抱える実務課題に適用することで問題解決の方法としてのシミュレーション技術の修得を図り、また、それらの基礎理論について理解することを目的とします。なお、本研究会は溶接構造研究委員会に設置された溶接力学シミュレーション研究会が取り組む課題のひとつとして実施されるものです。

### 2. 内 容

平成27年度、平成28年度のアドホック研究会「実構造物への展開を目指した溶接変形予測技術の検証」では、多層溶接継手の溶接実験および各種溶接力学シミュレーションソフトを使用して得た計算結果を比較することで、各種溶接力学シミュレーションソフトが有用なツールになり得ることを確認した。(フェーズⅠ) その結果を踏まえ本アドホック研究会では、溶接変形に及ぼす影響因子について詳細に検討を行うと共に、実構造物への展開に向けた溶接力学シミュレーションソフトの活用方法について検討を行う予定である。(フェーズⅡ) 結果がまとまり次第、溶接学会全国大会においてオーガナイズド・セッションを開催し、成果報告を行う予定である。

### 3. 研究期間

平成29年度、平成30年度(平成29年9月～平成31年8月)

### 4. 組 織

主査：柴原正和(大阪府大)

顧問：村川英一(阪大接合研)

幹事：麻 寧緒(阪大接合研)、芹澤 久(阪大接合研)、

中谷光良(日立造船)、中谷祐二郎(東芝)、

猪瀬幸太郎(IHI)、鷹羽新二(橋梁調査会)、

永木勇人(高田機工)

委員：堤 成一郎(阪大接合研)、山田順也(日立造船)、

只野智史(東芝)、上谷佳祐(三菱重工業)、

小川正裕(新日鐵住金)、柳田信義(日立製作所)、

成田 忍(simufact engineering)、安藤知明(ASTOM)、

法川剛二郎(ASTOM)、村山雅智(JFEエンジ)、

上月渉平(JFE スチール)

### 5. 参加資格

・溶接学会員である方が望ましい。

・溶接変形の実験・シミュレーションに積極的に参加頂ける方。

### 6. 申込方法

氏名・所属・部署・職名・連絡先(住所・TEL・FAX・E-mail)

・専門分野を記載し、電子メールにて下記までご連絡ください。

主査：柴原正和(大阪府立大学大学院工学研究科、准教授)

E-mail: shibahara@marine.osakafu-u.ac.jp

## 溶接学会誌、全国大会講演概要集J-STAGE電子版の一般公開制限について

学会会員特典をより明確にするために、J-STAGE 電子版の一般公開制限について、溶接学会誌はこれまでの発刊後3年を5年に、全国大会講演概要集はこれまでの全国大会終了後2ヶ月を5年に延長することになりました。その期間は、会員閲覧認証登録された個人会員への限定公開となります。その期間の溶接学会誌、全国大会講演概要集J-STAGE 電子版を閲覧いただくには、「会員閲覧

認証登録」が必要です。

つきましては、必ず「マイページログイン」(溶接学会 HP 右上)から「会員閲覧認証登録」を申請して下さい。(通常、申請された翌月中旬から閲覧が可能となります。事務局からメールでお知らせいたします。)

## 学生員への学会誌送付の廃止→電子版閲覧への移行について

溶接学会では、ご承知のとおりJ-STAGEによる学会誌、論文集、全国大会概要集の電子版による公開閲覧を鋭意進めて参りました。

この度、平成29年4月から学生員については、学会誌の冊子送付を廃止し、J-STAGE 電子版を閲覧いただくことになりました。(平成28年12月19日理事会決議)

溶接学会誌のJ-STAGE 電子版は、会員特典を考慮し、発刊後5年以内は会員限定閲覧で、5年より以前のは一般公開となります。

したがって、学会誌のJ-STAGE 電子版を閲覧いただくには、「会員閲覧認証登録」が必要です。

つきましては、必ず「マイページログイン」(溶接学会 HP 右上)から「会員閲覧認証登録」を申請して下さい。

なお、学会誌掲載の会報・会告につきましては、溶接学会 HP にて、閲覧できるようにいたします。



## ● 会員専用ページ「マイページ」の開設について

溶接学会の個人会員各位には、平成27年7月初旬に「会員専用ページに関する重要なお願い」を郵送させていただいています。必ずご一読ください。

このたび溶接学会では会員サービスの一環として、個人会員各位を対象とした会員専用ページ「マイページ」を新たに開設いたしました。

マイページでは、ご自身の会員情報を管理していただけるとともに、各種サービスのご利用が可能となります。

まずは、郵送のマニュアル「初回ログイン時にしていただくこと」をご参考に、マイページにアクセスしていただき、下記の操作（約5～10分）をお願いいたします。

①ログイン → ②会員情報確認・変更 → ③パスワード変更 → ④マイページ内の完了ボタン（会員情報等変更の有無にかかわらず必ず押してください）

ず必ず押してください）

なお、マイページのURLは、[member.jweld.jp/mypage](http://member.jweld.jp/mypage) ですが、溶接学会HPからもログインできます。

会員番号とパスワードは、大切にお控えください。  
また、E-mailアドレスは、重要な連絡やID等として必須となりますので、会員ご本人が常時ご使用のPC用E-mailアドレスを必ずマイページにご登録ください。  
(マイページに登録されたE-mailアドレスが正しいかご確認ください)

ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

## ● 溶接学会主催行事予定について

溶接学会本部、支部を含め、全国大会、シンポジウム、研究発表会、講演会、講習会、研修会、見学会など溶接学会主催の公開行事の予定を溶接学会ホームページに掲載していますので、ご参照ください。

溶接学会HP「イベント情報」→「溶接学会主催行事予定」をクリックして下さい。

URLは、<http://www.jweld.jp/event/pdf/event-main-calendar.pdf>

## ● Best Author賞 (JWS Best Author Award) の推薦について

下記により Best Author 賞の推薦を募集いたします。

本年第1号（1月号）から第8号（12月号）までに会誌に掲載された記事の中から優秀と認められるものを、巻号、題名、著者、推薦理由を記して、1編、編集委員会宛ご推薦下さい。

（平成30年1月31日まで）

### 【賞の概要】

会誌「溶接学会誌」に発表された記事のうち、特に多数の会員の研鑽、及び、学術、技術の向上、普及に貢献した記事の著者に授与される。

### 【選考委員】

同賞選定委員会

委員長：会誌編集委員長

委員：編集委員より数名（各分野代表＋総合企画＋副委員長）

### 【選考方法】

会誌編集委員および会員モニタの推薦による記事の中から選定委員会で選定する。

### 【選考基準】

溶接学会誌の本年第1号（1月号）から第8号（12月号）までに掲載された記事の中から、優秀と認められるものを、原則として毎年数編以内選定する。

### 【表彰等】

4月通常総会席上で表彰、賞状の贈呈。

### 【推薦書送付先】

（一社）溶接学会 編集委員会宛

## ● WEB掲載の溶接学会論文集35巻（平成29年度）の印刷物の購入について

溶接学会論文集は、平成19年1月より印刷物での発刊に代わってホームページ上にてWEB版として発刊されております。

印刷物にて一年分を纏めたものを購入される方は、下記により、平成30年3月31日までにお申込み下さいますようお願いいたします。

溶接学会論文集35巻（平成29年度）

【価格】 15,500円／冊（税込・送料別）

【申込先】 「お名前（会社名）」「送付先住所」「冊数」  
をご明記の上、FAXにてお申込み下さい。

日本印刷出版株式会社 TEL：06-6441-0075

FAX：06-6443-5815

## 平成30年度春季全国大会講演概要の頒布について

平成27年度春季全国大会より講演概要はデジタル化され、配布方法はホームページからのダウンロードのみとなり、従来のような大会前、大会当日の販売は廃止いたしました。

ただし、印刷版の全国大会講演概要は大会終了後、希望者へ別売にて提供させていただきます。

購入を希望される方は下記要領にてお申し込みくださいますようお願いいたします。

平成30年度春季全国大会講演概要

価 格：12,000円（税・送料込）

発送時期：平成30年6月下旬頃

### 【申込方法】

「書籍名」「ご連絡先」「お名前」「冊数」をご明記の上、FAXにてお申し込みください。折り返し、請求書をお送りいたします。

一般社団法人溶接学会 全国大会運営委員会 宛

F A X：03-5825-4331

申込締切：平成30年5月10日（木）

入金締切：平成30年5月31日（木）

なお、入金締切日までにご納入がない場合ご注文はキャンセルとさせていただきます。

## Express論文投稿の受付開始について

溶接学会では、溶接学会論文集への論文投稿について、完成度が高く、速やかな掲載が必要な論文に対してExpress投稿を受け付けることといたしました。Express投稿は、原稿受領通知書の著者への送付日から2週間以内に、査読結果を著者に通知するものです。

全国大会での優秀な発表に対してはExpress無料投稿券を発行

しています。また、所定の掲載料（通常投稿の約1.5倍）を納めることでもExpress投稿が可能です。

速やかな掲載を希望される方は是非ともご活用ください。

詳細は、投稿規定（<http://www.jweld.jp/kitei/toukou-kitei.html>）をご確認ください。

## Welding Lettersの創刊について

溶接学会では、基礎・基盤分野、および開発・実用分野で価値があり、速報性が高いと認められた論文をWelding Lettersとして創刊することといたしました。

WEB発刊で、使用言語を英語に限定し、国際的にも価値の高いものとなるよう配慮されております。原稿の長さは、2～4ページとしており、溶接学会論文集に比べて、より速報性を求める

論文を投稿することができます。

本会告をもちまして、Welding Lettersへの投稿の受け付けを開始させていただきます。皆様からの積極的な投稿をお待ちしております。

詳細は、投稿規定（<http://www.jweld.jp/kitei/toukou-kitei.html>）をご確認ください。